

(参考) HUBプロジェクトの概要一覧 (R7. 3. 19現在)

NO	プロジェクト名	背景・目的	取組概要	役割分担		取組期間
				組織名	活動内容	
1	水耕大豆プロジェクト～水耕栽培大豆のシステム開発～ (農業)	【背景】 大豆は、天候や連作障害、乾燥・過湿などの影響を受けやすく、その生産量や品質が安定しない。このため国内の大豆自給率は、大豆製品全体の6～7%程度となっている。 【目的】 大豆の国内自給率と県産収穫量の向上を目的に、水耕栽培による新しい次世代型大豆栽培システムの確立を目指す。	【活動内容】 大学が開発中の水耕栽培技術をもとに、地域資源を活用した栽培方法の確立する。また、水耕大豆の加工・発酵食品の開発に取り組む。 ・地域資源を活用した水耕大豆の生産技術の確立 ・水耕大豆に最適な加工条件の探索 ・水耕大豆を用いた料理レシピや加工品の開発	徳島文理大学	・チームリーダーとして、プロジェクト全体を統括 ・大豆水耕栽培技術及びシステム、加工品の開発 ・事業の内容をよりわかりやすく伝えるためのコンテンツ制作、情報発信方法の修正・改善	R7～R9
				マルコメ株式会社	・水耕大豆の成分分析 ・水耕大豆の加工品の試作と官能検査 ・栽培システムの開発	
				株式会社e環境	・液体肥料の開発	
				農林水産総合技術支援センター	・社会実装に向けた候補地の探索及び提案 ・社会周知に向けた情報発信	
2	未利用資源の活用による菌床きのこ生産体制の構築 (林業)	【背景】 菌床の原料となる広葉樹おが粉の不足や価格高騰などにより、菌床きのこの生産農家の経営環境は厳しさを増している。これまでの研究では、広葉樹おが粉の代替として、竹おが粉を1割配合するとシイタケの発生量が増加すること、また廃菌床を2割配合すると、コスト削減が可能であることを明らかにしてきた。 【目的】 竹や廃菌床などの未利用資源を活用し、地域循環可能な菌床キノコ生産モデルの構築や、生産コストの低減を目指す。	【活動内容】 生産者団体や種菌メーカー等との連携により、竹や廃菌床などの未利用資源を活用した菌床シイタケ栽培技術の確立に向けた以下の現地実証を行う。 ・竹を菌床原料に利用することによる地域循環モデルの確立 ・廃菌床の再利用によるコスト低減可能な栽培技術の確立	徳島大学	・チームリーダーとして、プロジェクト全体を統括 ・シイタケ廃菌床の成分分析	R7～R9
				株式会社カクタニ	・竹を利用したシイタケ栽培の実証試験(750菌床、1種菌)	
				有限会社多家良培菌	・竹を利用したシイタケ栽培の実証試験(500菌床、2種菌)	
				NPO法人竹林再生会議	・竹おが粉の調達、課題の抽出	
				神山椎茸生産販売共同組合	・廃菌床を利用したシイタケ栽培の実証試験(栽培環境と菌糸塊形成、発生量、廃棄率の検討)	
				株式会社北研	・小～中規模栽培施設における廃菌床を利用したシイタケ栽培の実証試験	
				農林水産総合技術支援センター	・竹を利用した実証試験結果とりまとめ ・廃菌床を利用したシイタケ栽培の再利用、再々利用の試験栽培	

NO	プロジェクト名	背景・目的	取組概要	役割分担		取組期間
				組織名	活動内容	
3	農家の労働力不足を解決するビジネスモデル構築 (農業)	【背景】 産地の労働力不足が深刻化する中、援農隊やワーキングホリデーなど様々な手法が試されているが課題解決には至っていない。一方、企業による社会貢献や人材育成活動として農業分野での連携機会は増加。また、神山では高専開校により産学官連携が活発化するなど、持続可能な農業支援の仕組み構築の好機となっている。 【目的】 「農家の労働力確保と収益向上」「新たなビジネスモデル構築」を図る取り組みを通じ、都市部ビジネスパーソンと農業者が継続的に関わる仕組みを構築し、農業課題の解決と地域経済の活性化を目指す。	【活動内容】 農家の労働力確保、販路拡大、農業DX導入をテーマとした以下の取り組みを組み合わせ、都市部と農業の新たな関係構築と持続可能なビジネスモデルを確立する。 ・農家と援農者のマッチング（労働力確保と関係人口創出） ・援農者向け神山体験ツアー（農業×DX） ・流通、販路開拓の実践、新ビジネス創出	ダイアログ・ハブ神山合同会社	・チームリーダーとして、プロジェクト全体を統括 ・ツーリズム視点の企画、プランニング ・農家、役場、企業との連携調整	R7～R9
				神山まると高等専門学校	・企業連携、教育支援 ・SP企業との連携、学生×援農者の交流促進	
				富士通株式会社	・調査、評価、データ分析の支援 ・社員派遣、アンケート・評価方法の設計	
				徳島県／神山町	・行政支援、農家ネットワーク ・助成金確保、農家支援、地域政策との連携	
				企業（マーケティング・DX関連）地域団体（商工会・観光協会）	・マーケティング、販路拡大、EC販売支援、商品ブランディング、ふるさと納税連携 ・観光・体験ツアー運営、関係人口拡大 ・援農ツアーの企画・運営、スマート農業導入	
				神山町のすだち農家	・農作業受け入れ・販路開拓 ・援農者の受け入れ、農作業指導、販路拡大の検討	
4	アグリスマート流通コンソーシアム：農家が作ることに集中できる仕組み (農業)	【背景】 農業分野の活性化策として、大規模化、DX導入による業務効率化、有利販売に向けた販路開拓などがあげられるが、農業者自らがこれらを実践するためには、人材確保、スキル習得、導入コストなど負担が大きく、本業である農業生産に支障を来す恐れもある。 【目的】 小規模農業者や多品種少量生産者を支援対象に定め、デジタル技術とデータ活用を基盤として、農業者の業務負担を軽減する仕組みを構築することで、農業者が「作る」ことに専念できる持続可能な農業モデルの確立を目指す。	【活動内容】 業務負担の増大、流通の非効率性、デジタル技術の活用不足、販売の機会損失など農業者が抱える課題を解決するため以下の取り組みを軸に実施する。 ・受発注業務の効率化 ・DX人材の活用と育成 ・共同配送モデルの構築	株式会社ザップクラブ	・チームリーダーとして、プロジェクト全体を統括 ・受発注システムの開発・運営（クラウドベース、安全な取引基盤） ・DX人材の配置・運用（育成・配置、システム操作研修）	R7～R9
				スマートアグリコンサルタンツ合同会社	・受発注システムの拡張機能開発（販売データ分析・需要予測） ・AIを活用した配送ルート最適化システムの構築 ・生産者の業務課題の分析（ヒアリング調査・ワークショップ）	
				富士通株式会社	・物流ネットワークの提供・共同配送の実施（配送スケジュール最適化） ・物流データの収集と最適化（受発注データ統合）	
				株式会社青し	・BtoB販路の開拓・販売代行実証実験 ・生産者の物流調整・受発注管理（共同配送スキームのコーディネート）	
				佐川急便	・業務フローの最適化 ・データ分析（業務改善提案・KPI設定）	
				阿波アグリガールズ	・受発注システムユーザーテスト、フィードバック ・販路開拓・マルシェ出展の推進（地域イベント参加）	
				農林水産総合技術支援センター	・成果の公表、自治体向け説明会などの支援	

No.	プロジェクト名	背景・目的	取組概要	役割分担		取組期間
				組織名	活動内容	
5	県産農産物を有効活用したインバウンド向け等加工品開発 (農業)	【背景】 本県への直行便就航などを背景に拡大するインバウンド需要を確実に捉え、県産品の販売拡大に資するためには、外国人観光客等の購買意欲やニーズに効果的に訴求する「新商品」や「新サービス」が求められている。 【目的】 学生ならではの柔軟な発想力を活かし、インバウンド需要も見据えた本県ならではの「6次化商品」を企画・開発することで、学生による経営力スキルアップとともに、県産品の販売拡大・認知度向上を目指す。	【活動内容】 学生（模擬会社）、加工業者、販売業者、デザイナー、在県外国人団体など多様な関係者の連携により、インバウンド向け商品を企画・開発するとともに、徳島空港など外国人利用が想定される店舗等でのテストマーケティングを行う。 ・商品企画、パッケージ企画 ・試作品開発、最終商品開発 ・最終商品のテストマーケティング	徳島農大そらそうじゃ	・チームリーダーとして、プロジェクト全体を統括 ・商品の企画提案	R7
				有限会社ニコニコヤみやげ店	・商品アドバイス、試食販売	
				市岡製菓株式会社	・商品アドバイス、菓子製造	
				UGDESIGN	・パッケージデザイン指導	
				生産者	・原料の安定供給に向けた産地づくり	
6	中山間地域における肉用鶏のスマート飼養管理技術の開発 (畜産業)	【背景】 県西部の肉用鶏業は、担い手不足により、山間部に点在する養鶏場の管理作業の負担が大きい。このため、令和6年9月に「にし阿波・山のチキンファーム構想」コンソーシアムを立ち上げ、生産から販売に至る一貫した取り組みに着手している。 【目的】 当コンソーシアムの取り組みと連動させ、スマート飼養管理技術の開発に取り組むことにより、課題解決を加速する。	【活動内容】 本県中山間地域に適応する鶏舎内環境測定システムを改良し、省力的な肉用鶏の飼養管理モデルの構築に取り組む。 ・温湿度等の環境データや、肉用鶏の育成成績等のデータの収集・蓄積・解析 ・解析データに基づく飼養管理基準の設定やモニタリングシステムの警報機能の拡充	農林水産総合技術支援センター	・チームリーダーとして、プロジェクト全体を統括 ・試験鶏舎における環境モニタリング ・環境要因と飼養成績との相関性調査、分析評価等	R7～R9
				吉野川養鶏農業協同組合	・現地鶏舎における環境モニタリングシステムの実証導入やデータ収集等	
				株式会社イシイ	・鶏舎内環境システムの改良等	
7	漁海況予測システムの開発 (水産業)	【背景】 本県漁業の就業者数が減少する中、正確な海洋情報を活用し、効率的な操業を実践する水産業のスマート化が求められている。 【目的】 操業判断や漁場選定に役立つ予測情報を配信する高度な「漁海況予測システム」を開発することにより、若手からベテランまで誰もがスマート水産業を実践できる環境の整備を目指す。	【活動内容】 海洋観測データや資源調査データ等をAIに学習させるなどして、高度な漁海況予測システムの開発に取り組む。 ・船曳網漁の好不漁の予測モデル開発 ・養殖ワカメ漁場の海況予測モデル開発 ・予測モデルをわかりやすい形態に加工し、Webで公開するシステムの構築	農林水産総合技術支援センター	・チームリーダーとして、プロジェクト全体を統括 ・漁業調査船や観測ブイで調査、収集したデータの収集・分析	R7～R9
				阿南工業高等専門学校	・漁海況予測モデルの開発・高度化	
				和田島漁協船曳網青壮年部	・予測精度の検証 ・ユーザーとしての利便性、必要な情報等のモニタリング	
				システム開発企業	・予測システムの加工・描画 ・漁海況予測情報の公開用プラットフォーム構築	